

甲斐市立敷島小学校 自己評価書

令和3年1月29日（金）作成

校長 竹野 貢造 記述者 職名（教頭） 市川 英雄

学校教育目標 「知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子どもの育成」

学校経営方針

教育諸法の精神を基に、山梨県及び甲斐市の教育方針に則り、変化の激しいこれからの社会を生き抜くために、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の知・徳・体をバランスよく育てることが大切である。

そのために、本校職員は家庭・地域社会と連携し、教育者としての使命感をもち、自己研鑽に励むとともに、一致協力して本校教育目標の具現化に努める。

1 全体評価

- ・児童のアンケート結果を見ると大変肯定的な回答が多かった。
- ・教職員による自己評価については、47項目全てにおいて大変肯定的な結果を得た。昨年度との比較で分析すると、昨年度を上回る回答数が13項目となった。特に顕著に上昇した項目として、「ホームページの活用」の項目が挙げられる。一方昨年度より低下した項目が4項目あったが、その原因の1つとして、感染症における行事等の中止が影響していると考えられる。
- ・保護者のアンケート結果では、時間を問う項目を除いた22項目において、17項目が大変肯定的であった。昨年度との比較では、4項目が上回り、4項目が下回った。下回った原因の1つとして、感染症における行事等の中止が影響していると考えられる。課題として「相談ができる友達がいる」と「宿題以外の自主学習をする」が挙げられる。
- ・児童の「学校は楽しいか」、保護者の「お子さんにとって学校は楽しいところ」の項目については、肯定的な回答が、それぞれ「92.8%」、「94.9%」であった。今後の課題として、少数ではあっても否定的な回答であった原因を探っていくことが大切である。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況	<ul style="list-style-type: none">・本校は、学校教育目標が、学校経営方針を踏まえたものになっており、教育活動の根幹と意識されていることがわかる。（昨年度よりも大変肯定的な回答が上昇している。）・学級担任をはじめ、各分掌における全職員が、学校経営方針に基づき教育活動を行っていることがわかる。・また、教育実践は、教育活動計画に沿って実施されていることがわかる。・全体的に、肯定的な回答が多い中、更に改善していく項目として、「PDC Aサイクルで教育活動に取り組む」が挙げられる。・「職場の福利厚生や健康管理について配慮がなされている」についても、肯定的な回答が多かったが、他の項目と比較すると、改善の余地がある。
改善策	<ul style="list-style-type: none">・「PDC Aサイクル」についての改善策は、計画は目的を持って立てられているか、その計画に基づいた行動が起こされているか、評価するときどのような規準で行うのか、改善策が立てられ実行させているのかについて再検討することが望ましい。また、その再検討をする時間の確保なども検討課題である。・「福利厚生」については、仕事の効率化を意識し、時間外勤務時間を減らす、年休の執行をしやすい環境づくりをする等の取組が必要である。

II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価においては、全ての項目において、大変肯定的な回答を得られた。特に評価された項目は、「施設・設備の定期的な点検」と「報告・連絡・相談がなされている」であった。 （保護者アンケートより） 〔昨年度より評価が高かった項目〕 「学校からの便りやホームページなどから教育活動の様子を知ることができる」 「学校は、保護者・地域住民からの声に耳を傾けている」 〔各年度より評価が低かった項目〕 「授業参観や学校開放日など、子どもの様子を知る機会になった」 「PTA活動に参加している」
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・「危機管理マニュアルの理解」について、更に向上させる必要がある。改善すべき点を再度見直し、内容の徹底を4月当初の職員会議等で全職員のもと周知徹底する。特に、災害時における個々の職員の、具体的な役割を周知する。 ・「校内研究に主体的に関わっている」についても、肯定的な回答が多かったが、今年度はコロナのため、十分な時間の確保ができないこと、年度当初にそのことが予測しにくかったことなどにより、研究の関わりに対し、職員の評価がやや低くなったと考えられる。来年度も、コロナにおける研究時間の確保が、少なくなることを見通した年間計画を考えていく必要がある。 ・今年度は、HP、たより、安心メールを活用し、学校の様子や学校からのお知らせを配信できた。この取組は、本校の特色として継続したい。 ・保護者や地域からの声に耳を傾けるについては、肯定的な回答が多かったが、もっと耳を傾けて欲しいという家庭もあった。家庭との連絡を更に密にしていきたい。 ・保護者が学校行事に参加する項目について昨年度より低下した。感染症が原因の1つと考えられるが、今後も同様な状況が考えられる。その中で対応し得る対策を考える。
III 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価においては、肯定的な回答を得られた。昨年度と比較すると、「集団づくり」、「教材教具の活用」、「質問が出る授業」、「家庭学習指導」について、上昇した。 ・課題として、「評価基準と評価方法を明確にした授業」の推進が挙げられる。 ・「先生はよく勉強を教えてくれる」の項目については、児童からの評価は大変肯定的であったが、保護者と教師自身からの評価は児童の評価を下回った。 ・保護者に対して「お子さんは授業内容を理解していますか」の項目で、昨年度より肯定的な回答が多かったが、「あまり思わない・思わない」と感じている保護者の割合が1割程度あった。 ・「宿題をしていますか」について、児童と保護者の数値がほぼ同じで、家庭における児童の学習状況を把握していただいていることがわかる。 ・自主学習については、保護者の回答が「あまりしていない・していない」を合わせると30%ほどとなった。児童に対して宿題以外に自主的な学習を期待していると考えられる。 ・児童の学習理解にたいする満足度は、国語が一番高く、次に算数で、英語については満足度が国語・算数と比較すると低い。

改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・「評価基準とその方法」については、今年度より通知表をあらたに3観点にした。「評価基準とその方法」について、学校としてより明確にしていく。 ・授業内容の理解について、1割程度の保護者が、肯定的ではなかった。学力の二極化がみられる中、学習支援が必要な児童に時間をかけて支援できる方策を探る。 ・パソコン、ゲーム、スマホなどの1日の使用時間について、児童の回答によると、3時間以上が全体の26.8%、そのうち4時間以上が全体の14.8%である。スマホ等の使用時間が長くなるほど、学力が上昇しにくいという傾向にあると言われている。家庭と協力してスマホ等の使用時間を制限する取組などが必要である。 ・家庭学習について、学年ごとに各家庭の協力を得て自主学習の取組をしている。学年の取組を各家庭にお知らせしながら継続していく。 ・英語については、学年が上がるごとに満足度は低くなる傾向にある。小学校に英語が導入されて教師が指導の在り方について、研修を重ねていく必要がある。また、英語専科の教員の導入を県や市に働きかけることも必要である。
IV 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価については、肯定的な回答が多かった。昨年との比較では、「とても思う」と「そう思う」の合計値はほぼ同様な結果であった。 ・「とても思う」についてみると、「児童理解のためにコミュニケーションを図っている」、「規範意識を育む指導に取り組んでいる」、「職員間で生徒指導上の課題を共有して対応している」、「家庭・保護者・関係機関との連携が図られている」の項目で上昇がみられた。 ・児童への「いじめは絶対にいけないことだと思いますか」の項目で、全体の99.7%が肯定的な回答で、その中でも「とても思う」については、全体の92.3%であった。 ・「相談する先生がいるか」については、教職員・児童・保護者の回答が大変肯定的であったが、特に児童と保護者の「とても思う」の数値が教職員よりも高かった。 ・「生き方教育を行っている」、「問題行動への迅速な対応」について、「とても思う」の回答について、更なる上昇が必要。 ・「あいさつをする」については、教職員の評価は高いが、それと比較すると、児童と保護者の回答がやや低かった。特に「地域の方へのあいさつ」について、課題が見える。 ・「規範意識の高揚」については、保護者から、更に指導を期待する結果が見て取れる。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・「生き方教育〔キャリア教育〕の実施」について、新しい取組を展開することではなく、学校生活全般のなかで、キャリア教育として意識できる場所の共通意識を持つことが必要。また、キャリアパスポートを生き方教育の柱と位置づけていくことが考えられる。 ・「問題行動への迅速な対応」について、日頃からの取組として、児童の様子の変容を捉える意識を持つ、教職員同士の情報交換を密にする、児童からの情報をしっかり受け止める等引き続き意識する。また、いじめについては、未然防止に努めるとともに、いじめアンケート等から、いじめの有無を確認し、組織的に迅速且つ適切な対応を行う。事案によっては家庭と連携して対応する。 ・「あいさつ」について、現在も取り組んでいるが、児童会活動などの自治活動を更に意識して取り組んでいく。教職員も積極的にあいさつをする。 ・「規範意識」について、日頃からの指導は引き続き継続していく。特に道徳の授業を要として、心の教育を行う。
V 地域との連携について	

達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価については、全体的に昨年とほぼ同様な結果であった。 ・特に上昇した項目は、「ホームページの活用」であった。 ・自己評価の「保護者は、学習指導や生活指導に協力的である」の項目の「とてもそう思う」の結果が上昇した。「とてもそう思う」の回答に特化して見ると、相対的に割合が低かった項目は、「地域人材の活用」, 「学校に意見を伝える機会づくり」が挙げられる。 ・保護者の回答から、昨年と比較して「ホームページなどから情報が得られる」と「保護者・地域住民からの声に耳を傾けている」の項目で上昇が見られた。 ・「授業参観やPTA活動, 地域の行事等への参加」についての項目は、昨年度より低下している。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域人材の活用」については、授業や校外学習で実施している。今後学級・学年単位での活用だけではなく、必要に応じて学校単位での活用を検討する。 ・「学校に意見を伝える機会づくり」について、PTA活動の中で意見の言える雰囲気作りや、普段からたよりなどをおして意見交換できる仕組みを考えていく。 ・「諸活動・諸行事への参加」については、今年度は感染症の影響が多分にあったと考えられる。
VI 学校の特色に関して	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「甲斐っ子の宝」に関連して、教職員は「すすんであいさつをするよう、指導に努めている」についての項目が昨年度同様肯定的な回答だった。本校では、全校をあげてあいさつ運動を実施している。 ・ファミリータイムや運動会をとおして、児童の縦の関係づくりに力を入れている本校にとって、全員の教職員が肯定的な回答であった。 ・読書活動に力を入れているが、引き続き、読書活動推進に取り組んでいく。低学年は朝の会の前に読書の時間を設けている。 ・音楽委員会を中心に、選曲をし、朝の会で歌っている。また、全校で合唱をする取組をしている。 ・全校挙げての無言清掃に取り組んでいる。
<p>3 まとめ</p> <p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での1年間といっても過言ではない年であった。その中で、家庭や地域との連携が思うように実施できないことがあったが、各家庭や地域の方々の協力を得て、臨機応変に取り組むことができた。コロナ禍であったからこそ改革できた部分も少なくなかった。この“改革”をコロナの終息後も継続して検討し、取り組んでいきたい。それと同時に、今後も新しい生活様式についても構築、習慣化していきたい。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の改訂, 評価方法の変更, 外国語の中学年への導入, ギガスクール, 言語教育, 主体的・対話的で深い学びの展開, 社会に開かれた学校づくり等, これからの学校に求められることが山積している。既に取り組んでいることではあるが, 導入されてスタートしたこの時期に, 組織的・計画的にすすめていくことが肝心である。 ・教職員の働き方改革を進め, 児童により質の高い教育の提供を目指す。 	